

令和3年度 園の自己評価

A…できている B…おおむねできている C…一部改善を要する D…改善を要する

1. 保育理念、保育観		
1	園の保育理念、保育方針、全体的な計画を全職員に周知している	A
2	園の保育方針を基にした、全体的な計画が立てられている	A
3	定期的に保育方針や保育観を確認できるような機会を作っている	A
4	全体的な計画を基に行事や園外保育を計画し、実践、分析、評価を行っている	A
<p>年度の始めには、園長から園の方針について説明がされ、全職員が共通理解をした上で、保育にあたることができるよう心掛けています。</p> <p>コロナ禍も2年目ということで、感染対策を意識した保育もずいぶん定着してきたように思う。昨年に続き、行事の在り方が見直されたが、全体的な計画の中で、その行事で何が育つのかを分析し、簡素化をする行事については、その行事の目的が達成されるために、どこを残して、どこを削除していくのか、という話し合いを多く行ってきた。保育者は、自分の保育についての自己評価チェックも行い、評価のよくなかった項目に対しては、そのことを意識しながら保育を行うような姿勢に変わり、年々、自己評価の点数も上がっており、保育技術や保育内容が確実に向上していることが伺える。</p>		
2. 保育計画、保育実践と振り返り		
1	全体的な計画を基に、各クラスで年間の目標を立案し、計画的に保育を行っている	A
2	子どもの発達を理解し、その先に見通しを持った保育を工夫している	A
3	配慮が必要な場合は、職員が共通認識を持ち、その子に応じた対応をしている	A
4	保育の振り返りを定期的に行い、今後に生かせるようにしている	A
<p>クラス計画は、クラスリーダーが主に作成するが、クラス会議でその内容について見直しや話し合いが行われている。</p> <p>また、常勤、パートなど雇用形態に関わらず、すべての保育者は毎月、その月の保育計画にそって、自分の保育における子どもの評価と自己評価を書き表し、反省評価が次月につながるようになってきている。また、その個人の評価は複数担任のクラスでは共有し合い、お互いの思いや考えを知る得ることで理解を深め合うことができている。</p> <p>昨年に続き、今年度も新型コロナウイルスの影響で、様々な行事の在り方が見直されたが、コロナ禍の工夫というのも、昨年より上手に考えることができていると思う。特に年長児においては、発表会は年齢別で行ったり、卒園式も保護者の人数制限などであっても、子ども達の達成感や充実感、喜びを感じ取るがことができ、コロナ禍であっても、どの学年もよい修了を迎えられたと思う。</p>		
3. 環境、安全		
1	一人一人が安心して過ごせる環境を工夫している	A
2	園の保育方針を基にした、環境構成が整えられている	A
3	職員一人一人が健康、安全に対する認識を持っている	A
4	職員が危機管理意識を常に持ち、緊急時に対応できるようにしている	A
<p>防災係の職員が任期3年目となり、園全体の防災についての取り組みが充実している。</p> <p>今年度は、「防災の日」を設け、消防署立ち合いの避難訓練、非常食の試食(非常用食具を使用)、保護者への引き渡し訓練などを総合的に行い、園児、職員ともに防災への意識を強く持てる機会となれた。</p> <p>不審者訓練では、不審者訓練は暗号の理解や園児の誘導などといった職員のための訓練とし、園児に恐怖を感じさせないことを大事に取り組んだ。実際にも園の周囲をうろつく不審者に対する対応があり、地域の交番との連携など、訓練の取り組みが生かされた。</p> <p>安全管理においては副園長を中心に行われており、気になることには素早く対応し、改善が計られている。</p>		
4. 食育		
1	職員が食育の重要性を理解し、季節や年齢に合わせた食育計画を立てている	A
2	栄養士、保育士などが連携し、食育を積極的に進めている	B
3	食材の安全に配慮した上で、様々な食材を味わえるようにしている	A

4	離乳食やアレルギー除去食などの特別食に配慮している	A
<p>じゃがいも、さつまいもの芋ほり体験をはじめとし、季節の野菜を栽培してクッキング活動に役立てたり、給食では旬の食材を積極的に取り入れて季節の味わいを楽しむことができています。食育活動の中心は、クッキング活動であるが、今年度もコロナ禍ということで、クッキング活動にはより慎重になり、その時の新型コロナウイルスや社会の状況に合わせて、活動を進めてきた。</p> <p>食物アレルギーや離乳食は、ひとり一人に合わせたものの提供をしないといけないので、大変な部分でもあるが、今年はアレルギー児の誤食が1件起きてしまった。幸い、重篤に至ることはなかったが、複数担任の連携ミスから起こったものであり、ヒヤリハットの事例として取り上げ、事故防止についての話し合いを行った。安心、安全な給食の提供とともに、今後も保護者の期待に応えられるようなおいしい給食作り、食育を続けていきたい。</p>		
5. 職員構成、役割分担、研修		
1	職員の仕事や役割を明確にし、連携しながら円滑に保育が進むよう、心がけている	A
2	園内、園外研修の年間計画を立てて、実行している	A
3	各職員が保育を深めるための研修を積極的に行っている	A
<p>年度初めに主幹保育教諭を中心に、園務分掌として、園の運営における係や行事担当を決めているが、各職員の個性や得意なことを生かしながら、適材適所の配置を心がけ、一人ひとりの力が発揮できるように配慮をしている。</p> <p>園内、園外の研修には人員配置を工夫しながら積極的に参加するようにしているが、今年度も新型コロナウイルスの影響で、研修会はいリモートで開催されることが多かった。直接、研修会場で講師の声を聞く方が内容は入りやすいが、リモート研修は、保育への影響が少なく済み、参加のしやすさはあった。また、モンテッソーリ教育の講師である伊藤初美先生も、最大限の感染対策を行いながら招き、毎月の研修を重ねてきたことは、コロナ禍においても保育を衰退させることなく、高い水準を保つ保育ができたと思う。</p>		
6. 保護者支援、子育て支援		
1	保護者に対し、園の保育保育内容や子どもの姿がわかるような発信をしている	A
2	保護者の状況など、個人情報への漏えいに気をつけている	A
3	保護者の子育てを支え、子育ての喜びを共有するよう、心掛けている	A
4	地域で子育てをしている親子に配慮し、園児との交流を積極的に進めている	A
<p>園だよりやクラスだよりは、日頃の活動の様子を伝えられるよう、カラー印刷でわかりやすく時間をかけて作成し、努力している。</p> <p>各保育者は、毎月の子どもの様子を観察し、保護者へ発信したいことや、子ども達の成長をよくまとめたものを作成し、保護者からも好評を得ている。今年度も新型コロナウイルスの影響で保育参観の実施ができなかったが、「おたより懇談会」として、保育の様子をまとめたおたよりを配布して喜ばれた。また、門扉の横にある大きな掲示板では、園の活動紹介を写真を交えて積極的に行い、保護者だけでなく、地域の子育て中の親子や地域へ向けてのよい情報発信の場となっている。</p> <p>また、月一度の「子育てサロン」は、コロナ禍の中、子育て中の母親、もしくは親子が、より一層、閉塞感を感じたり、行き場のなさが大きなストレスや不安につながっているのではないかと考え、サロンを開催することが子育て支援につながると判断して行ってきた。感染対策を強化したり、予約制での人数制限をするなど、制限も多かったが、それでも来園される親子には喜ばれる場所や時間となっていたことが伺えた。</p>		
7. 小学校や地域社会との連携		
1	定期的に地域の保育園や幼稚園、小学校との交流を行っている	C
2	町内会や地域の方との交流を積極的に行っている	B
3	ボランティアや実習生を受け入れる意義を理解し、受け入れ体制が整えられている	A
<p>地域の小学校、保育園、幼稚園との交流の場は基本的にない。これは、地域全体で取り組まないとなかなか難しい課題であるともいえる。</p> <p>正式な場はないが、年長児においては、小学校の授業参観や運動会を保護者と一緒に見学に出かけることを勧めるなどしている。しかし、今年度も、新型コロナウイルスの影響で、地域の行事も取りやめになったり、園外保育も自粛することが多かった。地域の老人ホームへの慰問もできなかったが、ビデオレターを届けるなどして喜ばれた。コロナ禍でもできることを探しながら積極的な取り組みを心がけた。</p> <p>実習生の受け入れも、コロナの関係で時期がずれ込んだり、まとめて長期に渡ったりしたが、受け入れた学生に対しては、職員全体が温かく迎え入れる姿勢を持ち、丁寧な指導を行うことを心掛けてきた。</p>		